

第一フロンティア生命 / 第一生命グループのご案内



第一フロンティア生命は第一生命グループの生命保険会社です。第一フロンティア生命は、銀行・証券会社・信用金庫などの募集代理店を通じて、主として長期の資産形成をサポートする保険商品を提供する生命保険会社です。第一フロンティア生命では、販売商品の特性に合わせて専門性を高め、質の高い商品とサービスをお客さまにご提供し続けることをめざしています。

一生のパートナー
第一生命

第一生命グループについて

第一生命グループは、1902年、日本での創業以来、お客さま本位（お客さま第一）を経営の基本理念に据え、生命保険の提供を中心に、地域社会への貢献に努めてきました。これからも、お客さまとお客さまの大切な人々の「一生のパートナー」として、グループ各社が、それぞれの地域で、人々の安心で豊かな暮らしと地域社会の発展に貢献していきます。

アフターサービスについて ご契約に関する情報提供とサービスは以下のとおりです。



ご照会などにつきましては、お電話で承ります。
第一フロンティア生命お客さまサービスセンター

☎0120-876-126

営業時間：月曜日～金曜日（祝日、年末・年始などの休日を除く）9:00～17:00

サービス内容

- ①ご契約内容についてのご質問・お問合わせ
- ②基準価額のご照会
- ③給付金などの請求のお手続き
- ④目標値の変更など、ご契約内容の変更のお手続き



現在の積立利率、基準価額、「保険料円貨入金特約」、「保険料外貨入金特約」、「円貨支払特約」の為替レートなどは、第一フロンティア生命のホームページでもご覧いただけます。

第一フロンティア生命ホームページ URL <http://www.d-frontier-life.co.jp/>



ご契約内容・特別勘定の運用状況などについて下記の書類をご郵送します。

- 「ご契約状況のお知らせ・特別勘定四半期運用レポート」(年4回)
※3月末、6月末、9月末、12月末の積立金額などのご契約状況・特別勘定の運用状況を翌月下旬以降にご郵送します。
- 「定額の円貨建年金保険への移行のお知らせ」
※ご契約時に「目標値到達時定額円貨建年金保険移行特約」を付加された方のみ、目標値到達時にご郵送します。
※移行後は「ご契約内容のお知らせ」を年2回ご郵送します。

ご検討、お申込みに際しては、「ご契約のしおり・約款」、「特別勘定のしおり」などを必ずお読みください。

「ご契約のしおり・約款」、「特別勘定のしおり」ではご契約についての重要事項、ぜひ知っていただきたい事項などについてご説明しています。必ずあわせてお読みいただき、大切に保管してください。

この保険商品のご購入に際しては、必ず変額保険販売資格を持つ生命保険募集人にご相談ください。

契約締結における担当者の役割について

生命保険契約は、お客さまと第一フロンティア生命との間で締結される契約であり、お客さまからのお申込みをいただき、第一フロンティア生命が承諾したときに有効に成立します。募集代理店の担当者（生命保険募集人）は、契約締結の際の媒介をさせていただくことが役割であり、契約締結の代理権や告知の受領権はありません。担当者（生命保険募集人）の登録状況・権限などに関しまして確認をご希望の場合は照会先【第一フロンティア生命03-6685-6500(大代表)】までご連絡ください。

その他ご注意ください事項について

- この商品は第一フロンティア生命を引受保険会社とする生命保険商品です。この商品は預金とは異なり、預金保険法第53条に規定する保険金支払の対象とはなりません。募集代理店が元本の保証を行うことはありません。なお、保険契約にご加入いただくか否かが募集代理店における他の取引に影響を及ぼすことはありません。
- 募集代理店は、取扱商品の引受保険会社の支払能力を保証するものではありません。
- お申込みの際は、内容を十分にお確かめのうえ、必ずご自身で申込書にご記入・ご捺印ください。ご契約成立後、第一フロンティア生命より「保険証券」を送付しますので、お申込内容に間違いがないか必ずご確認ください。
- 法令上の規制により、お客さまの勤務先によってはお申し込みいただけない場合があります。
- 保険料に充当するための借入を前提としたお申込みは、お受けできません。

※募集代理店では、複数の保険会社の商品を取り扱っている場合があります。詳しくは募集代理店にお問い合わせください。

【募集代理店】

【引受保険会社】



第一フロンティア生命保険株式会社

〒141-0032 東京都品川区大崎2-11-1

大崎ウィズタワー

電話 (03) 6685-6500(大代表)

お客さまサービスセンター ☎0120-876-126

営業時間：月曜日～金曜日（祝日、年末・年始などの休日を除く）9:00～17:00

◎第一フロンティア生命ホームページ <http://www.d-frontier-life.co.jp/>

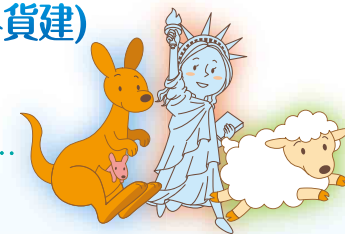
(NZドル) '15年10月版

◎B15F0106(2015.8.10) 営業F2750-03 '15年9月作成

プレミアジャンプ・年金 (外貨建)

年金原資確定部分付変額個人年金保険（通貨指定型）

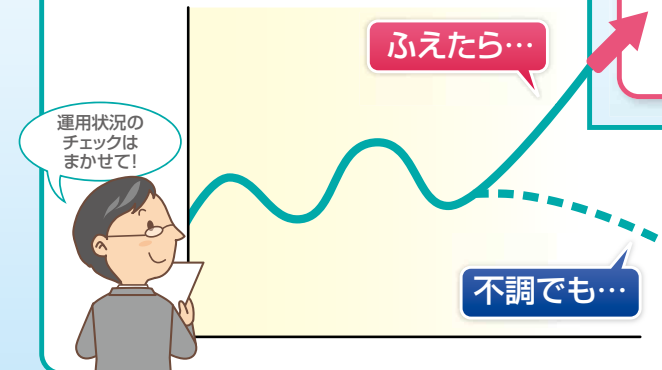
大切な資産だから…



① できればふやしたい



外貨建の株式・債券
などでふえる期待



運用状況の
チェックは
まかせて!

② 早く受け取りたい



円でお受取り

③ 減らしたくない



外貨建で
最低保証

この商品は、第一フロンティア生命を引受保険会社とする
生命保険であり、預金とは異なります。

契約締結前交付書面（契約概要／注意喚起情報）兼 商品パンフレット

この書面は「契約締結前交付書面」と「商品パンフレット」で構成されています。「契約締結前交付書面」は、ご契約の内容などに関する重要な事項を「契約概要」と「注意喚起情報」に分類のうえ記載しています。ご契約前に十分にお読みいただき、内容をご確認・ご了解のうえ、お申し込みいただきますようお願いいたします。なかでも、主な免責事由やご契約中の他の保険契約の解約・減額を前提とした新たな保険契約のお申込みの場合の注意事項など、お客さまにとって不利益な情報が記載された部分について、あらかじめご了解のうえ、お申し込みください。



【引受保険会社】



第一フロンティア生命
第一生命グループ

しくみと特徴

この保険は、 豪ドル建・ 米ドル建・ NZドル建
ニュージーランドドル建
の変額年金保険です。

“できればふやしたい” “でも減らしたくない”

ステップ1 ご契約時

運用期間・通貨・最低保証を選びます。

運用期間	通貨	最低保証
10年	豪ドル建 米ドル建	100% 110%
5年	豪ドル建 NZドル建	100%

一時払保険料が
2つの部分に
分れます。

*運用期間10年の場合、
変額部分の割合は、
「100%」の方が高くなります。



*ご契約時の金利情勢などによっては、お取り扱いできない運用期間・通貨・最低保証(年金原資保証率)があります。

10年 豪ドル建 100%

を選んだ場合のイメージ図

円貨で払い込む
ことができます



*米ドルで払い込むことができる
「保険料外貨入金特約」もあります。



初期費用の負担は
ありません。

死亡給付金額

積立金額

解約返還金額

▶P19

解約返還金額の円換算額

プラスα

一時払保険料の
100%
(豪ドル建)

年金原資額

110%保証 の場合のイメージ図



お受取方法

一括受取

運用期間満了時の年金原資額が
受け取れます。

または

年金受取

契約日は、第一フロンティア生命が一時払保険料のうち変額部分の基本保険金額に相当する額を特別勘定に繰り入れる日となります。
「第一フロンティア生命が一時払保険料を受け取った日から起算して8日後となる日」または「承諾日」のいずれか遅い日末に繰り入れます。

ステップ2 運用期間中 (10年または5年)

市場環境の変化に対応し、
積極的に収益の獲得をめざします。

ご契約に適用される積立利率で、
確実にふやします。

ステップ3-① 運用期間満了時

「定額部分」にプラスαした
運用成果が期待できます。

ステップ1 で選んだ最低保証を
外貨建で確保します。

用語について

変額部分(運用実績連動部分) 特別勘定で運用し、積立金額がその特別勘定の運用実績により増減する部分をいいます。
定額部分(定率部分) 一般勘定で運用し、運用期間満了時の積立金額が、年金原資保証率に基づいてご契約の際に確定する部分をいいます。

*上記しくみ図はイメージを表したもので、将来の死亡給付金額、積立金額および解約返還金額などを保証するものではありません。

負担していただく主な費用について ▶P23-24

- ① 定額部分における費用
直接負担していただく費用はありません。積立利率の計算にあたって、ご契約の締結・維持などに必要な費用および死亡給付金を支払うための費用をあらかじめ差し引いております。
 - ② 変額部分における費用
保険契約関係費(特別勘定の資産総額に対して年率1.85%)、および資産運用関係費(信託報酬は、投資対象となる投資信託の純資産総額に対して年率0.20%(税抜き))を負担していただきます。
年金支払開始日以後は、保険契約関係費(年金管理費)(受取年金額に対して0.4%(円貨で年金を受け取る場合は0.35%))を負担していただきます。
- 変額部分の投資リスクについて(損失が生じるおそれ)**
変額部分について、日本・米国・欧州・香港・新興国の株式、日本・米国・欧州の債券、商品(コモディティ)、為替取引などで実質的に運用されるため、運用実績が積立金額、死亡給付金額、解約返還金額などの増減につながるから、株価や債券価格の下落、為替の変動などにより、積立金額、解約返還金額は一時払保険料相当額を下回ることがあり、損失が生じるおそれがあります。

解約する場合のリスクについて(損失が生じるおそれ)

定額部分について市場価格調整を行うこと、変額部分について投資リスクがあること、解約の際に解約控除がかかることなどの理由により、解約返還金額などが一時払保険料相当額を下回り、損失が生じるおそれがあります。

為替リスクについて(損失が生じるおそれ)

為替相場の変動により、お受取時の為替レートで円貨に換算した年金原資額、死亡給付金額、解約返還金額が、ご契約時の為替レートで円貨に換算した年金原資額、死亡給付金額、解約返還金額を下回る場合や、お受取時の為替レートで円貨に換算した年金原資額、死亡給付金額、解約返還金額が、ご契約時の為替レートで円貨に換算した一時払保険料相当額を下回り、損失が生じるおそれがあります。

しくみと特徴

この保険は、 豪ドル建・ ミドル建・ NZドル建
の変額年金保険です。



この商品は、第一フロンティア生命を引受保険会社とする
生命保険であり、預金とは異なります。

“できればやりたい” “でも減らしたくない”

ステップ1 ご契約時

運用期間・通貨・最低保証を選びます。

運用期間	通貨	最低保証
10年	豪ドル建	100% 110%
5年	ミドル建	100%
	NZドル建	100%

一時払保険料が
2つの部分に
分かれます。

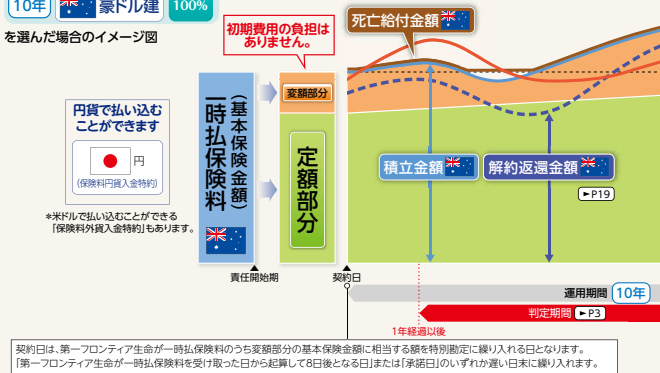
*運用期間10年の場合、
変額部分の割合は、
100%の方が高くなります。



*ご契約時の金利情勢などによっては、お取り扱いできない運用期間・通貨・最低保証(年金原資保証率)があります。

10年 豪ドル建 100%

を選んだ場合のイメージ図



ステップ2 運用期間中 (10年または5年)

市場環境の変化に対応し、
積極的に収益の獲得をめざします。

ご契約に適用される積立利率で、
確実にふやします。

ステップ3-② 目標値への到達時

ご契約時に指定した円換算の目標値に
到達した場合には、自動的に運用成果を
確保し、受け取れます。

円換算の目標値は105%または110~200%(10%さざみ)を指定できます。
例 円換算金額 1,000万円 × 目標値 120% = 目標金額 1,200万円

解約返還金額の円換算額が目標値に到達
到達の判定期間は、契約日から1年経過後より、運用期間満了の2か月前まで毎日※1です。
※1 月曜日～金曜日(祝日、年末・年始などの休日を除く)



用語について
変額部分(運用実績変動部分) 特別勘定で運用し、積立金額がその特別勘定の運用実績により増減する部分をいいます。
定額部分(定率部分) 一般勘定で運用し、運用期間満了時の積立金額が、年金原資保証率に基づいてご契約の額に増減する部分をいいます。
*上記のイメージは表したもので、将来の死亡給付金額、積立金額および解約返還金額などを保証するものではありません。

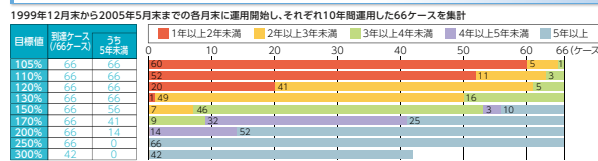
目標到達シミュレーション

10年 豪ドル建

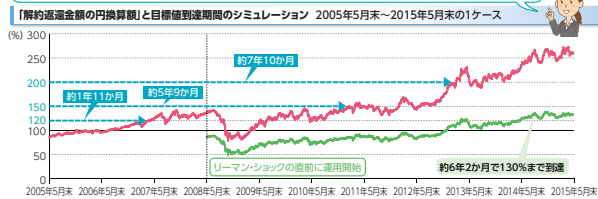
100%保証
積立利率 1.25% (定額部分 88.4% 変額部分 11.6%)

※ご注意 目標値に到達したケース数および経過年数は、確実性を保証するものではありません。

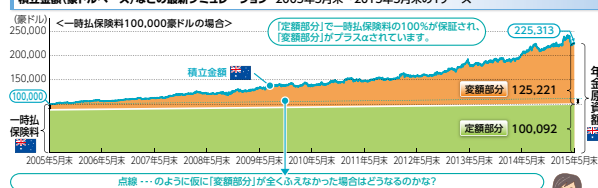
目標値に到達したケース数および目標到達までの経過年数



66ケースのうち、最新のケースでどのように目標到達したのかをみてみましょう。



積立金額(豪ドルベース)などの最新シミュレーション 2005年5月末～2015年5月末の1ケース



※変額部分の運用実績が±0%で推移した場合のシミュレーション

一時払払込金額	1,000,000円	1,000,000円	1,000,000円	1,000,000円	1,000,000円
年金額	111,692豪ドル	111,692豪ドル	111,692豪ドル	111,692豪ドル	111,692豪ドル
変額部分	11,600豪ドル	11,600豪ドル	11,600豪ドル	11,600豪ドル	11,600豪ドル
定額部分	28,400豪ドル	28,400豪ドル	28,400豪ドル	28,400豪ドル	28,400豪ドル

○上記シミュレーションは、あくまでも仮定の数値に過ぎず、実際の運用成果を表したものではありません。
また、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。
○資産運用関係費にかかる消費税について、最新データである2015年5月末時点の税率(一律8%)で計算しています。

負担していたく主な費用について (P23-24)
①定額部分における費用
当保険料としていただく費用はありません。積立利率の計算にあたって、ご契約の維持・維持などに必要な費用および死亡給付金を支払うための費用をあらかじめ定めています。
②変額部分における費用
保険契約関係費(特別勘定の資産総額に対して年率1.85%)、および資産運用関係費(低投資額は、投資対象となる投資信託の純資産総額に対して年率0.20%(低投資率)を負担していただきます。
年金支払開始日より後には、保険契約関係費(年金管理費)(受取年金額に対して0.4%(円貨で年金を受け取る場合は0.35%))を負担していただきます。
変額部分の投資リスクについて(損失が生じるおそれ)
変額部分について、日本・米国・欧州・香港・新興国の株式、日本・米国・欧州の債券、商品(コモディティ)、為替取引などで実質的に運用されるため、運用実績が積立金額、死亡給付金額、解約返還金額などの増減につながるほか、株価や債券価格の下落、為替の変動などにより、積立金額、解約返還金額は一時払保険料相当額を下回ることもあり、損失が生じるおそれがあります。

解約する場合のリスクについて(損失が生じるおそれ)
定額部分について市場価格調整を行うこと、変額部分について投資リスクがあること、解約の際に解約控除がかかることなどの理由により、解約返還金額などが一時払保険料相当額を下回り、損失が生じるおそれがあります。
為替リスクについて(損失が生じるおそれ)
為替相場の変動により、お取付の為替レートで円貨に換算した年金原資額、死亡給付金額、解約返還金額が、ご契約時の為替レートで円貨に換算した年金原資額、死亡給付金額、解約返還金額を下回る場合や、お取付の為替レートで円貨に換算した年金原資額、死亡給付金額、解約返還金額が、ご契約時の為替レートで円貨に換算した年金原資額、死亡給付金額、解約返還金額を下回り、損失が生じるおそれがあります。
定額の円貨連年保険への移行に関する留意事項について
・為替相場や市場金利の変動など、市場環境によっては、目標値に到達しない場合があります。目標値については、市場環境をふまえて、ご指定ください。
・到達判定日から移行日前日の解約返還金額は変動(増減)します。



○上記シミュレーションは、あくまでも仮定の数値に過ぎず、実際の運用成果を表したものではありません。
また、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。
○資産運用関係費にかかる消費税について、最新データである2015年5月末時点の税率(一律8%)で計算しています。

目標到達シミュレーション

前提条件

積立利率	2015年5月末の指定通貨ごとの10年金利スワップレートを参考
一時払保険料の定額部分と変額部分の割合	積立利率を上記で固定しているため、通貨ごとの全ケースで割合は同じ
為替レート	毎日のSPOTレート(Bloombergデータをもとに第一フロンティア生命が作成)を使用

費用	保険契約関係費・資産運用関係費控除後、受取時の課税前
目標値到達判定期間	契約日の1年経過以後から運用期間満了の2か月前まで毎日判定(目標値250%と300%はご契約後の変更時に指定できます)
その他	定額部分の積立金額に適用される市場価格調整を考慮

10年

豪ドル建

110%保証

(積立利率1.25%

定額部分 97.2%

変額部分 2.8%)

10年

米ドル建

100%保証

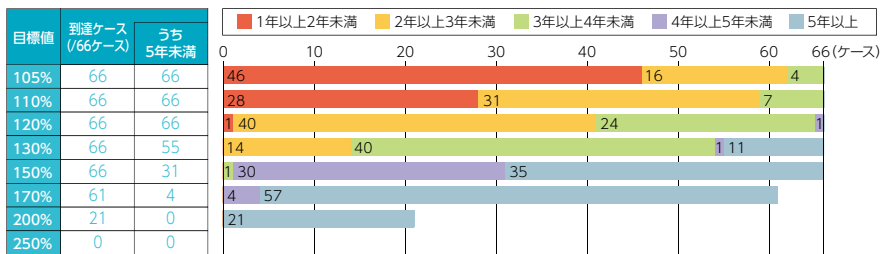
(積立利率0.63%

定額部分 94.0%

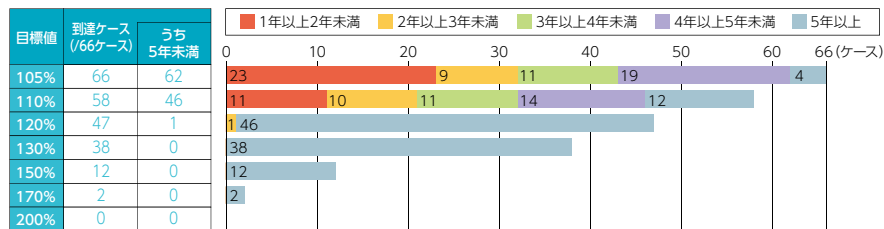
変額部分 6.0%)

⚠️ ご注意 目標値に到達したケース数および経過年数は、確実性を保証するものではありません。

目標値に到達したケース数および目標到達までの経過年数 1999年12月末から2005年5月末までの各月末に運用

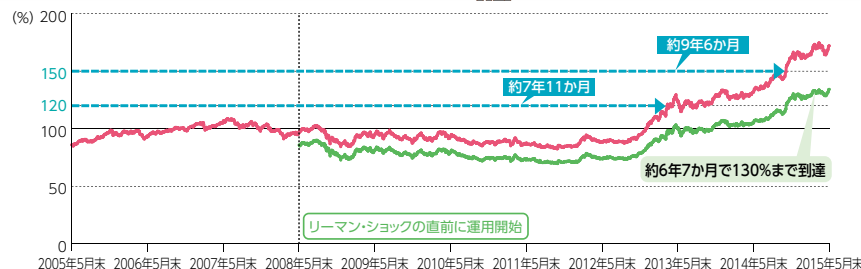
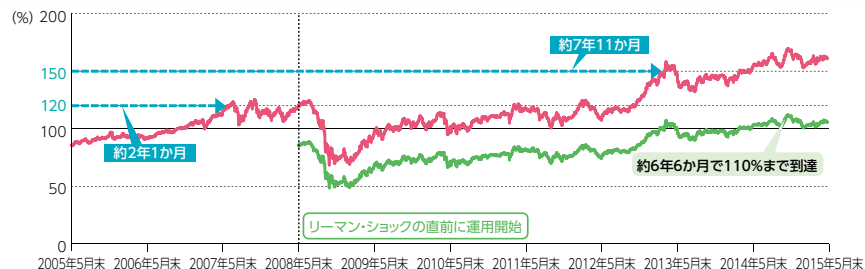


開始し、それぞれ10年間運用した66ケースを集計

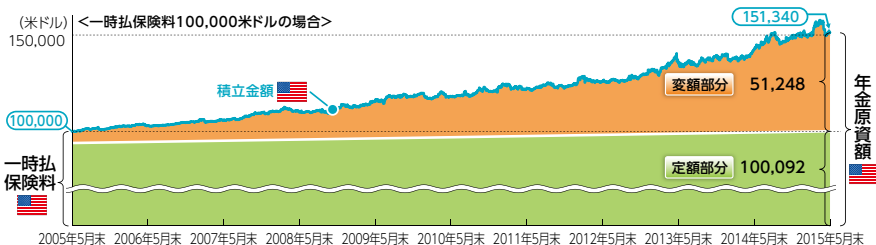
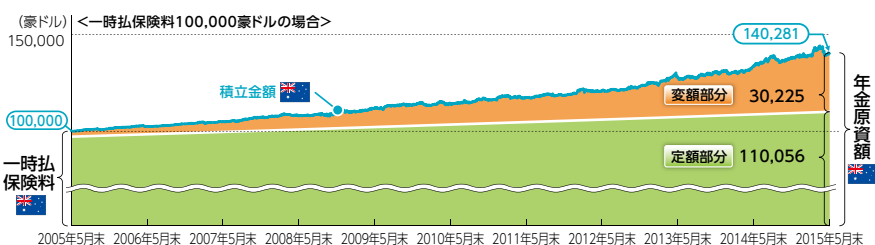


66ケースのうち、最新のケースでどのように 目標到達したのかをみてみましょう。

「解約返還金額の円換算額」と目標値到達期間のシミュレーション 2005年5月末～2015年5月末の1ケース



積立金額(豪ドルベース・米ドルベース)などの最新シミュレーション 2005年5月末～2015年5月末の1ケース



110%保証 は、前提条件の積立利率0.63%ではご契約いただけないため、シミュレーションを作成できません。

⚠️ ご注意 ○上記シミュレーションは、あくまでも仮定の数値に過ぎず、実際の運用成果を表したものではありません。また、将来○資産運用関係費にかかる消費税について、最新データである2015年5月末時点の税率(一律8%)で計算しています。

の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。

商品パンフレット

目標到達 シミュレーション

前提条件

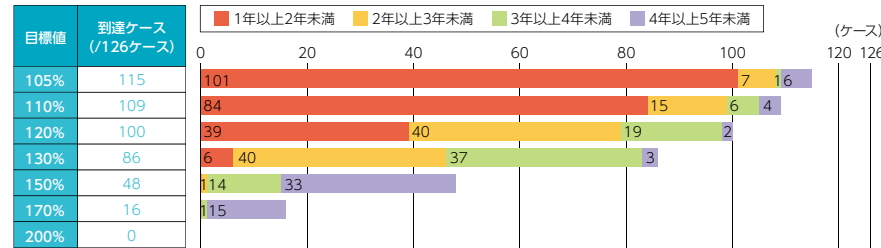
積立利率	2015年5月末の指定通貨ごとの5年金利スワップレートを参考
一時払保険料の 定額部分と変額部分の割合 為替レート	積立利率を上記で固定しているため、通貨ごとの全ケースで割合は同じ 毎日のSPOTレート(Bloombergデータをもとに第一フロンティア生命が作成)を使用

費用	保険契約関係費・資産運用関係費控除後、受取時の課税前
目標値到達判定期間	契約日の1年経過以後から運用期間満了の2か月前まで毎日判定(目標値250%と300%はご契約後の変更時に指定できます)
その他	定額部分の積立金額に適用される市場価格調整を考慮

5年 豪ドル建 100%保証 (積立利率0.75% 定額部分 96.4% 変額部分 3.6%)

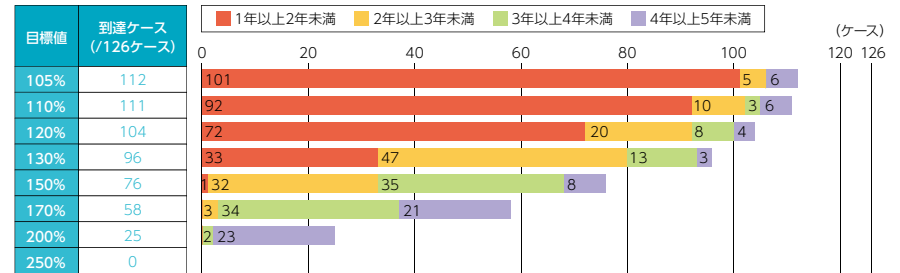
⚠️ ご注意 目標値に到達したケース数および経過年数は、確実性を保証するものではありません。

目標値に到達したケース数および目標到達までの経過年数 1999年12月末から2010年5月末までの各月末に運用



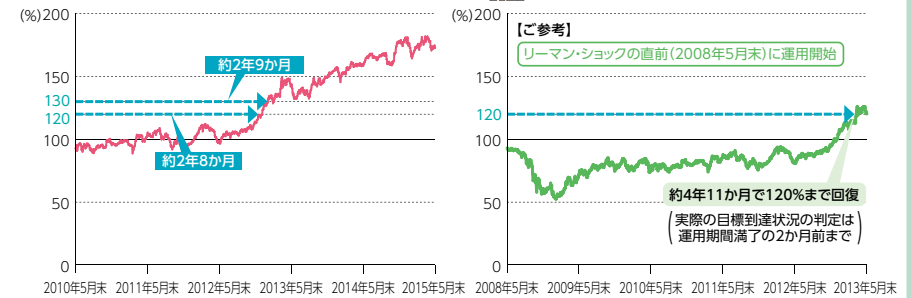
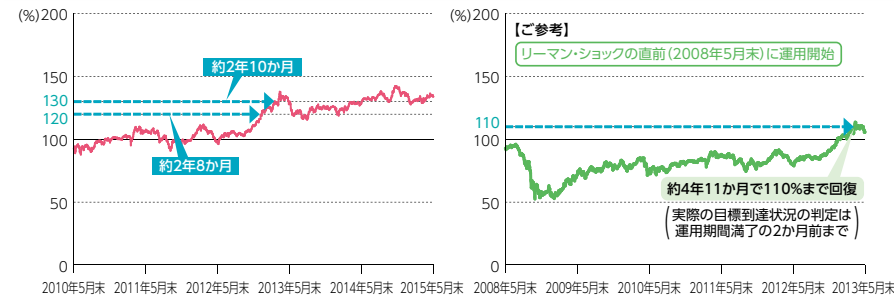
5年 NZドル建 100%保証 (積立利率1.65% 定額部分 92.2% 変額部分 7.8%)

開始し、それぞれ5年間運用した126ケースを集計

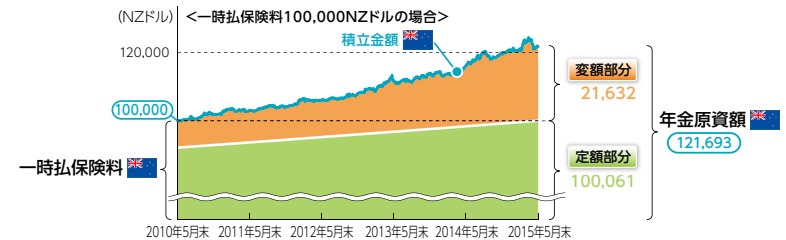
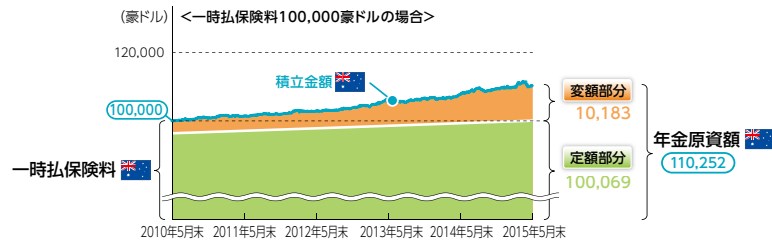


126ケースのうち、最新のケースでどのように 目標到達したのかをみてみましょう。

「解約返還金額の円換算額」と目標値到達期間のシミュレーション 2010年5月末～2015年5月末の1ケース



積立金額(豪ドルベース・NZドルベース)などの最新シミュレーション 2010年5月末～2015年5月末の1ケース

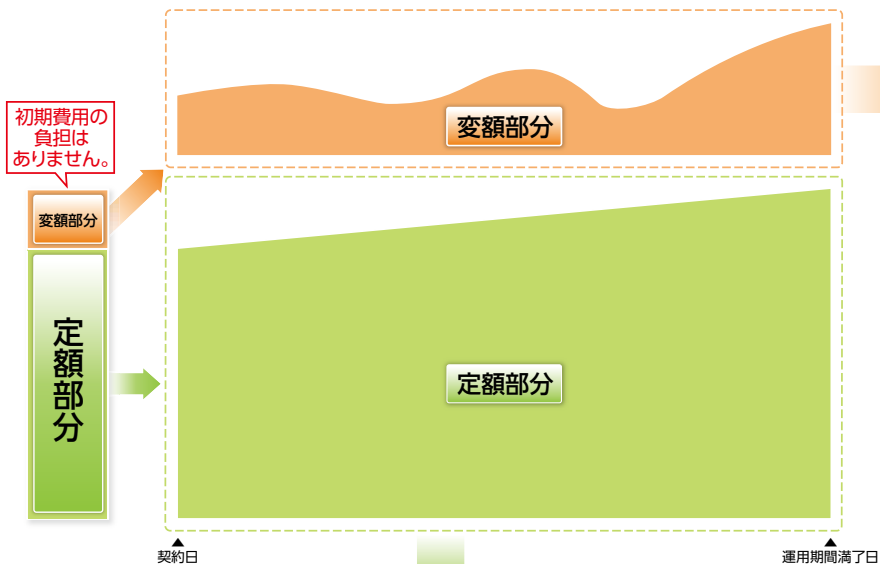


⚠️ ご注意
○上記シミュレーションは、あくまでも仮定の数値に過ぎず、実際の運用成果を表したものではありません。また、将来
○資産運用関係費にかかる消費税について、最新データである2015年5月末時点の税率(一律8%)で計算しています。

の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。

定額部分 と 変額部分 の運用のしくみ

しくみ図(イメージ)



定額部分

- 好金利の外貨で確実にふやします。
- この部分のみで、運用期間満了時には、一時払保険料以上を外貨建で最低保証します。

運用期間	通貨	最低保証
10年	豪ドル建 米ドル建	100% 110%
5年	豪ドル建 NZドル建	100%

定額部分のみで一時払保険料以上の金額が最低保証されるから、安心ですね。

「定額部分」のご留意事項

- ・利率はご契約時に適用される積立利率で固定されるため、インフレにより価値が減少することがあります。
- ・解約などの際、ご契約時より市場金利が上昇した場合は、価値が減少することがあります。▶P19

変額部分

運用の **質** と **量**、両面の工夫により、市場環境の変化に対応し、積極的に収益の獲得をめざします。

質

実質的に日本・米国・欧州・香港・新興国の「株式」、日本・米国・欧州の「債券」、エネルギーなどの「商品」の3つの資産に投資し、市場環境に応じた配分の見直しを行います。

資産配分を毎月見直し

株式	債券
日本・米国・欧州・香港・新興国の株式による収益	日本・米国・欧州の債券による収益
商品	短期金融資産など
エネルギー、金属、農作物などによる収益	市場や資産全体の値動きが大きい場合は、資産の値動きを調整する役割

量

実際の投資金額より大きな金額で運用できるしくみで、積極的に収益の獲得をめざします。



*諸費用や税金は考慮しておりません。

このしくみにより、基準価額は大きな価格変動を伴います。よって、大きな収益を得られる可能性がある一方、大きな損失となる可能性もあります。変額部分がゼロになる可能性はありますが、マイナスになることはなく、定額部分に影響を与えることはありません。

定額部分のみでしっかりと最低保証があるので、変額部分は余裕を持って積極的な収益の獲得をめざすことができます。

「変額部分」のご留意事項

「定額部分」と異なり、運用期間満了時に最低保証がないため、市場環境によっては、ご契約時の一時払保険料の変額部分相当額を下回ることがあります。

*特別勘定の詳細につきましては「特別勘定のしおり」をお読みください。

契約概要

この「契約概要」は、ご契約の内容などに関する重要な事項のうち、特にご確認いただきたいきますようお願いいたします。
「契約概要」に記載のお支払事由やお支払いに際しての制限事項は、概要や代表事については「ご契約のしおり・約款」に記載しておりますのでお読みください。

この冊子では、分かりやすさの観点から約款上の用語をつぎのとおり表記しています。

約款に記載の名称	この冊子での表記
定率部分	定額部分
運用実績連動部分	変額部分
ニュージーランドドル	NZドル

1 引受保険会社の商号と住所などは以下のとおりです

- 商号 第一フロンティア生命保険株式会社
- 住所 〒141-0032 東京都品川区大崎2-11-1 大崎ウィズタワー
- 電話 0120-876-126
- ホームページ <http://www.d-frontier-life.co.jp/>

2 この保険のポイントは以下のとおりです

- この保険は、一時払保険料を定額部分と変額部分に分けて運用し、年金支払開始日に年金額を定めるしくみの保険料一時払方式の外貨建の変額年金保険です。

- 基本保険金額に年金原資保証率*を乗じた金額が、年金原資額として定額部分のみで最低保証され、変額部分で更なる運用成果の上乗せをめざします。積立金額は、定額部分の積立金額および変額部分の積立金額の合計額となります。

(1) 定額部分について

第一フロンティア生命が一時払保険料を受け取った日における積立利率を適用し、運用期間満了時の積立金額が、年金原資保証率*に基づいてご契約の際に確定する部分をいいます。

※「基本保険金額」に対する「年金支払開始日の前日における定額部分の積立金額」の割合で、この保険では、運用期間が10年(米ドル・豪ドル)の場合は100%または110%、5年(豪ドル・NZドル)の場合は100%となります。

(2) 変額部分について

特別勘定で運用し、積立金額がその特別勘定の運用実績により増減する部分をいいます。

- 積立利率は、毎月2回(1日と16日)、指標金利(運用期間に応じた指定通貨の金利スワップレート)に基づいて第一フロンティア生命が定めた利率のことで、定額部分に適用します。

- 外貨建の年金原資額や死亡給付金額が、外貨建の一時払保険料相当額を下回することはありません。

- 年金受取期間は、3年、5年および10年から選択できます。また、年金でのお受取りにかえて一括でのお受取りも選択できます。

- 「目標値到達時定額円貨建年金保険移行特約」の付加により、「基本保険金額の円換算額」に対する「解約返還金額の円換算額」の割合が目標値に到達した場合、自動的に円貨で運用成果を確保して定額の円貨建の年金保険に移行します(移行後の積立金額は、当社所定の利率による利息をつけて年金支払開始日の前日まで積み立てます)。

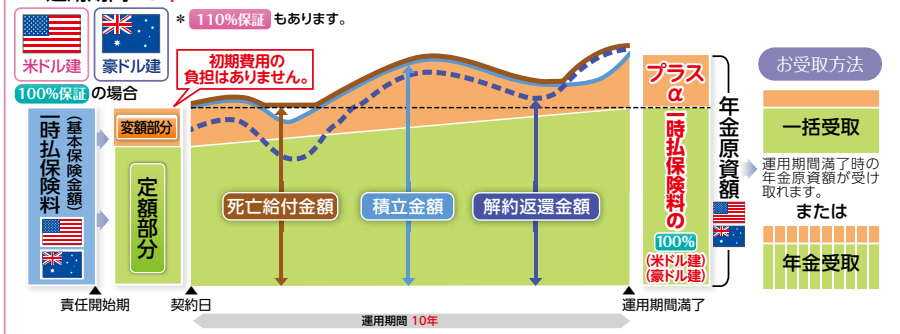
きたい事項を記載しています。ご契約前に十分にお読みいただき、内容をご確認・ご了解のうえ、お申し込み例を示しています。お支払事由の詳細や制限事項などについての詳細ならびに主な保険用語の説明などに

<この保険のリスク>

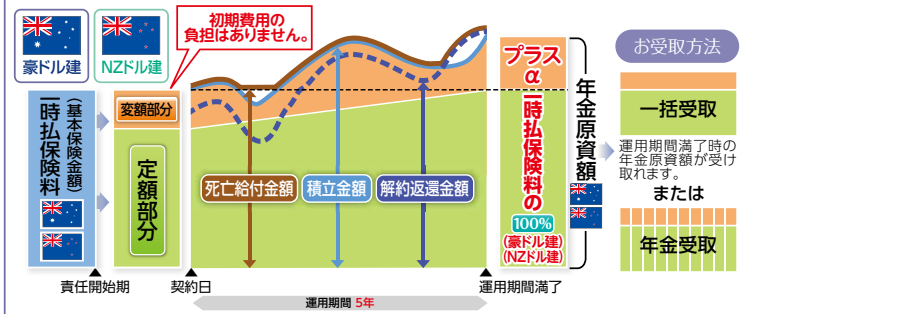
- 変額部分について、日本・米国・欧州・香港・新興国の株式、日本・米国・欧州の債券、商品(コモディティ)、為替取引などで実質的に運用されるため、運用実績が積立金額、死亡給付金額、解約返還金額などの増減につながるから、株価や債券価格の下落、為替の変動などにより、積立金額、解約返還金額は一時払保険料相当額を下回ることがあり、損失が生じるおそれがあります。
- 定額部分について市場価格調整を行うこと、変額部分について投資リスクがあること、解約の際に解約控除がかかることなどの理由により、解約返還金額などが一時払保険料相当額を下回り、損失が生じるおそれがあります。
- 為替相場の変動により、お受取時の為替レートで円貨に換算した年金原資額、死亡給付金額、解約返還金額が、ご契約時の為替レートで円貨に換算した年金原資額、死亡給付金額、解約返還金額を下回る場合や、お受取時の為替レートで円貨に換算した年金原資額、死亡給付金額、解約返還金額が、ご契約時の為替レートで円貨に換算した一時払保険料相当額を下回り、損失が生じるおそれがあります。

3 この保険のしくみ図は以下のとおりです

<運用期間10年>



<運用期間5年>



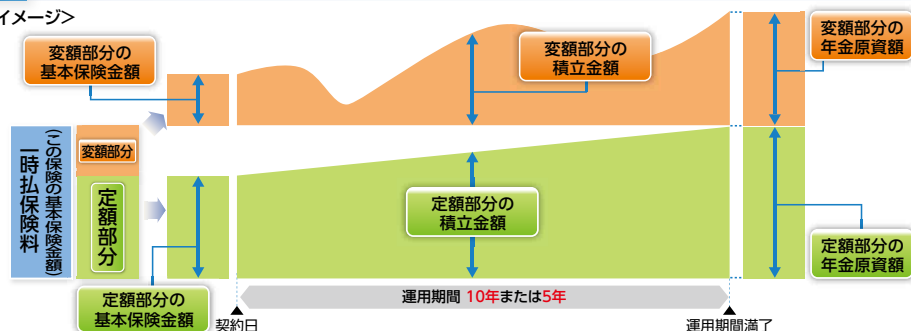
*上記のしくみ図はイメージを表したもので、将来の死亡給付金額、積立金額および解約返還金額などを保証するものではありません。

*「目標値到達時定額円貨建年金保険移行特約」を付加し、目標値に到達した場合のイメージは、P16をご参照ください。

*契約日は、第一フロンティア生命が一時払保険料のうち変額部分の基本保険金額に相当する額を特別勘定に繰り入れる日となります。
「第一フロンティア生命が一時払保険料を受け取った日から起算して8日後となる日」または「承諾日」のいずれか遅い日々に繰り入れます。

4 一時払保険料について、定額部分と変額部分の2つの部分に分けて運用を行います

<イメージ>



(1) 定額部分

- 定額部分の基本保険金額とは、一時払保険料のうち定額部分に充当する金額のことをいい、定額部分の年金原資額（基本保険金額に年金原資保証率[※]を乗じた額）を確定するためご契約の際に必要となる金額を、適用される積立利率を用いて計算します。

※運用期間が10年（米ドル・豪ドル）の場合は100%または110%、運用期間が5年（豪ドル・NZドル）の場合は100%となります。

$$\text{定額部分の基本保険金額} = \text{この保険の基本保険金額} \times \text{定額部分の割合} \times \frac{\text{年金原資保証率（100\%または110\%）}}{\left(1 + \frac{\text{適用される積立利率}}{\text{運用期間（年数）}}\right)}$$

* 定額部分の基本保険金額の単位は1米セント、1豪セント、1NZセントとし、端数については小数第1位を切り上げます。

* 定額部分の割合の単位は0.1%とし、端数については小数第2位を切り上げます。

- 定額部分の積立金額とは、定額部分の基本保険金額と同額を、ご契約に適用される積立利率および契約日からの経過年月日数に基づき計算する金額のことをいいます。

(2) 変額部分

- 変額部分の基本保険金額とは、一時払保険料のうち変額部分に充当する金額のことをいい、この保険の基本保険金額から定額部分の基本保険金額を差し引いて計算します。

$$\text{変額部分の基本保険金額} = \text{この保険の基本保険金額} - \text{定額部分の基本保険金額}$$

- 変額部分の積立金額とは、変額部分の基本保険金額と同額を特別勘定で運用し、特別勘定資産の運用実績により定まる金額のことをいいます。

ご参考 定額部分および変額部分の基本保険金額の計算例など

① 定額部分および変額部分の基本保険金額の計算例

運用期間：10年、指定通貨：豪ドル、一時払保険料（この保険の基本保険金額）：100,000豪ドル、適用される積立利率：2.5%、年金原資保証率：100%の場合

$$\begin{aligned} \text{定額部分の基本保険金額} &= \text{この保険の基本保険金額} \times \frac{\text{年金原資保証率}}{\left(1 + \frac{\text{適用される積立利率}}{\text{運用期間（年数）}}\right)} \\ &= 100,000 \text{豪ドル} \times \frac{100\%}{\left(1 + \frac{2.5\%}{10}\right)} \\ &= 100,000 \text{豪ドル} \times 78.2\% \text{（小数第2位を切り上げ）} \\ &= 78,200 \text{豪ドル} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \text{変額部分の基本保険金額} &= \text{この保険の基本保険金額} - \text{定額部分の基本保険金額} \\ &= 100,000 \text{豪ドル} - 78,200 \text{豪ドル} \\ &= 21,800 \text{豪ドル} \end{aligned}$$

② 定額部分および変額部分の割合の例

（運用期間10年）

指定通貨	年金原資保証率	適用される積立利率	0.5%	1.0%	1.5%	2.0%	2.5%	3.0%
米ドル	100%	定額部分の割合	95.2%	90.6%	86.2%	82.1%	78.2%	74.5%
豪ドル	100%	変額部分の割合	4.8%	9.4%	13.8%	17.9%	21.8%	25.5%
米ドル	110%	定額部分の割合	ご契約 いただけません			94.8%	90.3%	86.0%
豪ドル	110%	変額部分の割合				5.2%	9.7%	14.0%

（運用期間5年）

指定通貨	年金原資保証率	適用される積立利率	0.5%	1.0%	1.5%	2.0%	2.5%	3.0%
豪ドル	100%	定額部分の割合	97.6%	95.2%	92.9%	90.6%	88.4%	86.3%
NZドル	100%	変額部分の割合	2.4%	4.8%	7.1%	9.4%	11.6%	13.7%

5 年金または死亡給付金をお支払いします

年金

- 年金支払開始日以後、年金支払日に被保険者が生存しているときに年金をお支払いします。

年金の種類		年金受取開始年齢 [※]
確定年金	年金受取 年金受取期間は、3年、5年および10年から選択できます。 年金受取期間中に被保険者が死亡した場合、残りの年金受取期間の未払年金現価をお支払いします。 この場合、未払年金現価のお受取りに加えて、年金を継続して受け取ることでもできます。	5歳～90歳
一括受取 (年金原資額 一時支払)	一括受取 年金原資額を一括受取することができます。 *ご契約時には選択できません。年金支払開始日前にご案内する書面にて選択することができます。	

※年金支払開始日における被保険者の満年齢です。

注1 年金額は、年金原資額をもとに、年金支払開始日における基礎率など（予定利率など）に基づいて算出されますので、年金支払開始日まで確定しません。

注2 年金額が3,000米ドル、3,000豪ドル、3,000NZドル、円貨の場合は30万円に満たない場合は、保険契約は年金支払開始日の前日に保険期間が満了して消滅したものとし、年金原資額をご契約者にお支払いします（3年確定年金の場合を除く）。

注3 年金のお受取りに加えて、年金受取期間の残存期間に対応する未払年金の現価を一括でお受け取りいただくことができます（未払年金の一括払）。

注4 年金支払開始日以後、年金受取人が死亡した場合には、あらかじめ指定した後継年金受取人が引き続き年金を受け取ることができます。後継年金受取人の指定がないときは、年金受取人の死亡時の法定相続人が後継年金受取人となります。

死亡給付金

- 被保険者が、年金支払開始日前に死亡された場合、被保険者が死亡した日末の基本保険金額、積立金額または解約返還金額のいずれか大きい金額を、死亡給付金として死亡給付金受取人にお支払いします。

- 年金支払開始日を繰り延べ、被保険者が繰延べ期間中に死亡された場合、被保険者が死亡した日における繰延べ後積立金額を、死亡給付金として死亡給付金受取人にお支払いします。年金支払開始日の繰延べについての詳細は、P20をご参照ください。

- 「目標値到達時定額円貨連年保険移行特約」を付加し、定額の円貨連年保険への移行後に被保険者が死亡された場合の死亡給付金額は、被保険者が死亡した日における移行後積立金額となります。

*責任開始期の属する日から起算して3年以内に被保険者が自殺したときなど、死亡給付金をお支払いできないことがあります。詳しくはP27および「ご契約のしおり・約款」をお読みください。

年金などを外貨でお受け取りになる場合には、外貨で受領できる口座をお客さまに用意していただく必要があります。また、外貨でのお受取りは円貨でのお受取りに比べてお客さまの口座に着金するまでに時間がかかることがあります。

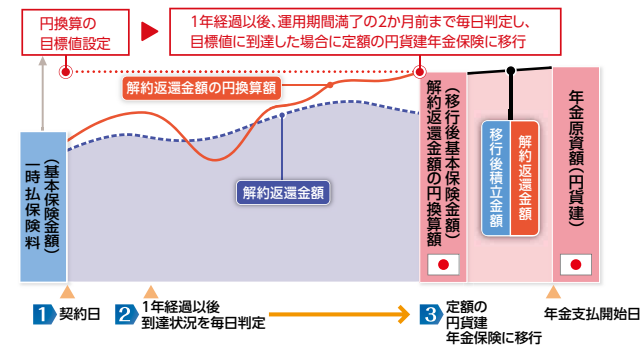
6 この保険には付加できる特約があります

詳細につきましては「ご契約のしおり・約款」をお読みください。

目標値到達時 定額円貨建 年金保険 移行特約	■ご契約時のみ付加できます(ご契約後に付加することはできません)。 ■「基本保険金額の円換算額(判定基準金額)」に対する「解約返還金額の円換算額」の割合が目標値に到達した場合、定額の円貨建年金保険に移行します。 ■目標値は105%または110～200%から10%きざみで指定いただけます。目標値は契約後も、到達判定日まで限り、変更できます。変更時にはさらに250%、300%も指定いただけます。 *市場環境(「ご契約のしおり・約款」をお読みください)によっては、目標値に到達しない場合があります。目標値については、市場環境をふまえ、ご指定ください。						
保険料 円貨入金特約	■保険料を円貨でお払い込みいただくことができます。 ■指定通貨への換算に適用する為替レートは、円貨払込金額が第一フロンティア生命に着金した日の第一フロンティア生命所定の為替レートとなります。						
保険料 外貨入金特約	■保険料を指定通貨と異なる外貨でお払い込みいただくことができます。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>払込通貨</th><th>指定通貨</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>米ドル</td><td>豪ドル・NZドル</td></tr> <tr> <td>豪ドル</td><td>米ドル・NZドル</td></tr> </tbody> </table> ■指定通貨への換算に適用する為替レート(クロスレート)は、外貨払込金額が第一フロンティア生命に着金した日の第一フロンティア生命所定の為替レートとなります。	払込通貨	指定通貨	米ドル	豪ドル・NZドル	豪ドル	米ドル・NZドル
払込通貨	指定通貨						
米ドル	豪ドル・NZドル						
豪ドル	米ドル・NZドル						
円貨支払特約	■年金、死亡給付金、解約返還金などを円貨で受け取ることができます。 ■年金などのご請求の際に付加できます。 ■円貨への換算に適用する為替レートは、第一フロンティア生命所定の為替レートとなります。 ■円貨による年金受取の選択は、第1回の(特約)年金の請求の際に限ります。また、円貨による年金受取を開始された場合、以後、外貨で受け取ることができません。年金原資額は、第一フロンティア生命所定の為替レートで円貨に換算し、その金額をもとに年金額を計算します。						
死亡給付金等の 年金払特約	■死亡給付金を一時金にかえて年金で受け取ることができます。 ■年金支払開始日前で死亡給付金の支払事由の発生前に限り、付加できます。 ■特約年金の受取回数は、所定の回数(5回～40回(5回きざみ))から選択いただけます。						

7 目標値を設定した場合は、以下のとおりのお取扱いとなります

〈「目標値到達時定額円貨建年金保険移行特約」を付加した場合のイメージ〉



1 目標値設定

■目標値は、「基本保険金額の円換算額(判定基準金額)^{*1}」に対する「解約返還金額の円換算額^{*2}」の割合です。

※1 一時払保険料を第一フロンティア生命に着金した日の判定基準為替レートで円換算した金額となります。なお「保険料円貨入金特約」を付加した場合は円貨払込金額と同額、「保険料外貨入金特約」を付加した場合は外貨払込金額を第一フロンティア生命に着金した日の判定基準為替レートで円換算した金額となります。

※2 解約返還金額を判定日の目標値判定為替レートで円換算した金額となります。

判定基準為替レート	TTM +50 銭	*TTM (対顧客電信売相場仲値) は、第一フロンティア生命所定の金融機関が公表する値となります。
目標値判定為替レート	TTM -50 銭	*左記の為替レートは 2015 年 8 月現在の数値であり、将来変更することがあります。

■目標値は、以下から指定いただけます。

105% または **110%** ～ **200%** (10% きざみ)

■目標値到達までは、目標値を何度でも変更することができます。変更時はさらに 250%、300%も指定いただけます。

2 到達状況の判定

■契約日から 1 年経過以後より、運用期間満了の 2 か月前まで、到達状況を毎日^{*3}判定します。

※3 月曜日～金曜日(祝日、年末・年始などの休日を除く)

3 目標値に到達した場合には、自動的に円貨で運用成果を確保し、定額の円貨建年金保険に移行

■目標値に到達した日(到達判定日)の翌々営業日(移行日)に、到達判定日末の「解約返還金額の円換算額」を移行後基本保険金額とする定額の円貨建年金保険に移行します。なお、到達判定日から移行日前日の解約返還金額は変動(増減)します。

■移行後基本保険金額は、年金支払開始日の前日までの期間(移行後積立期間)、当社所定の利率で積み立てます(積み立てられる金額を移行後積立金額といいます)。

■年金支払開始日は、移行日から起算して 1 年を経過した日の直後に到来する年単位の契約応当日、またはご契約の締結の際に定められた年金支払開始日のいずれか早く到来する日となります。

■年金支払開始日の前日における移行後積立金額を年金原資額とし、年金原資額の一括受取または年金受取ができます。

*解約および年金原資額の一括受取の税務のお取扱いにつきましては、契約日からの年数により異なります(なお、5年以内の場合は源泉分離課税の対象として、源泉徴収されます)。詳しくは P30 をお読みください。

■移行後積立期間には、ご契約を解約して移行後積立金額をお受取りいただくこともできます(市場価格調整は行わず、解約控除もかかりません)。

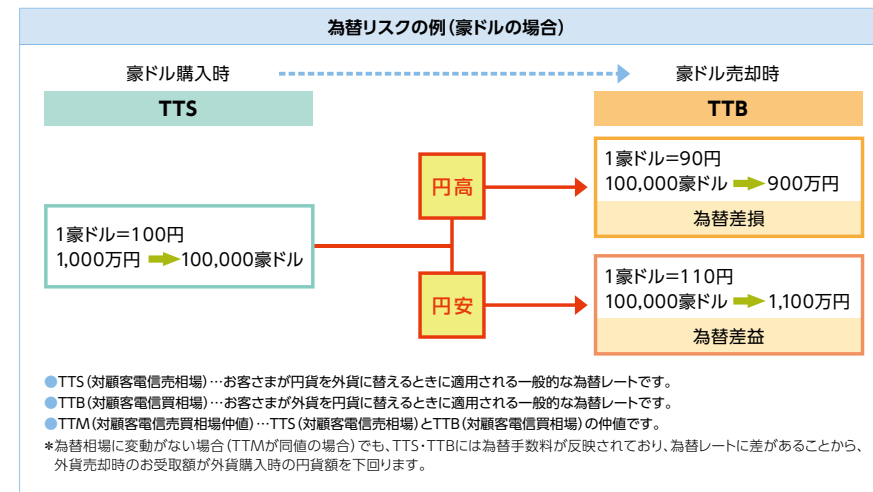
8 運用期間、契約年齢、保険料の払込方法などは、以下のとおりのお取扱いとなります

基本保険金額 (一時払保険料 もしくは 各払込金額) *ご契約時の金利情勢などに よっては、お取り扱いできない 指定通貨・年金原資保証率が あります。	最低	指定通貨で入金する場合	米ドル 20,000米ドル	豪ドル 20,000豪ドル	NZドル 20,000NZドル	
		「保険料円貨入金特約」を 付加する場合	円 200万円			
			「保険料外貨入金特約」を 付加する場合	払込通貨:米ドル／指定通貨:豪ドル・NZドル 20,000米ドル		
					払込通貨:豪ドル／指定通貨:米ドル・NZドル 20,000豪ドル	
	最高	*保険料の払込単位は、円:1万円、米ドル:1米ドル、豪ドル:1豪ドル、NZドル:1NZドル。 5億円相当額※ ※第一フロンティア生命が毎年6月に定める為替レートで円換算します。 *同一の被保険者について、他に第一フロンティア生命の変額個人年金保険に加入されている場合、 基本保険金額は通算して5億円相当額を超えることはできません。				
運用期間 (契約年齢)		10年 (0歳～80歳) 契約年齢は、契約日における被保険者の満年齢です。 5年 (0歳～85歳) なお、ご契約時の金利情勢などによってはお取り扱いできない運用 期間があります。				
年金受取開始年齢		5歳～90歳				
年金受取人		ご契約者または被保険者から指定				
死亡給付金受取人		被保険者の配偶者または3親等以内の血族から指定 *ひ孫、血族の甥(おい)・姪(めい)まで指定できます。				
後継年金受取人		被保険者、被保険者の配偶者または3親等以内の血族から指定 *後継年金受取人は1名のみ指定できます。 *ひ孫、血族の甥(おい)・姪(めい)まで指定できます。				
年金受取期間の変更		年金支払開始日前に限り、年金受取期間 (回数) の変更を取り扱います。				
年金支払開始日の変更		年金支払開始日の繰延べを取り扱います。				
保険料の払込方法		一時払のみ取り扱います。				
解約		解約返還金をお受け取りいただけます。なお、解約された場合、以後の保障はなくなります。 *請求書類がお客さまサービスセンターに到着した日 (書類に不備がある場合は、完備した日) を 解約返還金計算日とし、その日末の積立金額を基準として解約返還金額を計算します。				
基本保険金額の変更	増額	取り扱いません。				
	減額	取り扱いません。				
契約者貸付		取り扱いません。				

9 この保険は無配当保険ですので、契約者配当金はありません

10 この保険には為替リスクがあります

詳細はP12をご参照ください。



11 ご契約を解約した場合、解約返還金が支払われます（減額の取扱いはありません）

■解約返還金額は、解約返還金計算日末のつぎの金額となります。

$$\text{解約返還金額} = \left[\text{定額部分の積立金額} \times (1 - \text{市場価格調整率}) \right] + \text{変額部分の積立金額} - \text{解約控除の額}$$

市場価格調整（定額部分の積立金額に適用されます）

■市場価格調整とは、市場金利の変動に応じた運用資産の価値の変動を解約返還金額に反映させるための手法のことをいいます。このため、解約の際の市場金利に応じて定額部分の価値が変動し、解約返還金額が増減します。

■市場価格調整率は、つぎの算式により計算されます。

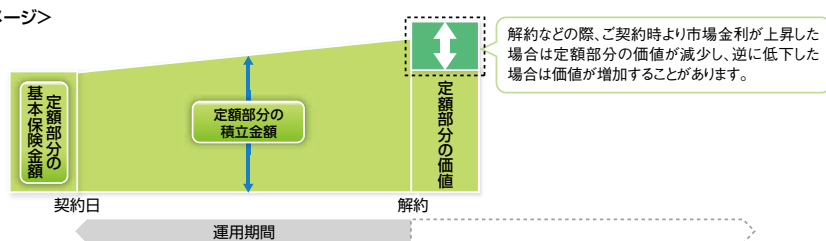
$$\text{市場価格調整率} = 1 - \frac{1 + \text{適用されている積立利率}}{1 + \text{解約返還金計算日の積立利率} + 0.45\%} \times \frac{\text{残存月数}}{12}$$

*「適用されている積立利率」とは、解約返還金計算日にこの保険契約に適用されている積立利率とします。

*「解約返還金計算日の積立利率」とは、解約返還金計算日にこの保険契約の一時払保険料を当社が受け取り、この保険契約と同一の年金原資保証率、運用期間、通貨および特別勘定が指定された新たな保険契約を締結すると仮定した場合に、その新たな保険契約に適用される積立利率とします。

*「残存月数」とは、運用期間の満了日までの月数をいい、1か月未満の端数がある場合は、これを切り捨てます。

<イメージ>



■「目標値到達時定額円貨建年金保険移行特約」を付加して目標値に到達し、定額の円貨建年金保険への移行後は市場価格調整を行いません。

解約控除

■解約控除の額は、つぎの算式により計算されます。

$$\text{解約控除の額} = \text{この保険の基本保険金額} \times \text{解約控除率(下表参照)}$$

解約控除率

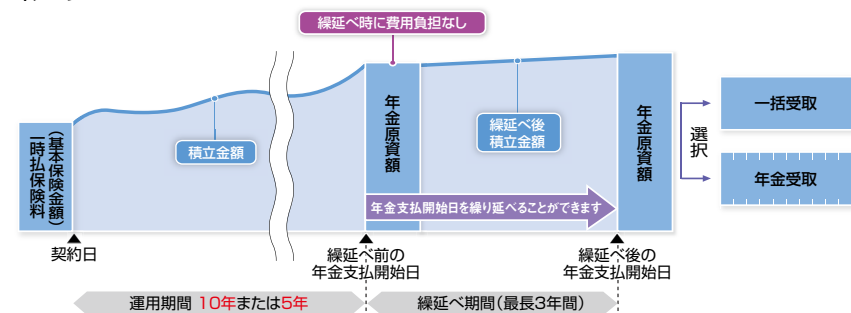
経過年数	1年未満	1年以上 2年未満	2年以上 3年未満	3年以上 4年未満	4年以上 5年未満	5年以上 6年未満	6年以上 7年未満	7年以上 8年未満	8年以上 9年未満	9年以上 10年未満
運用期間 10年	10.0%	9.0%	8.0%	7.0%	6.0%	5.0%	4.0%	3.0%	2.0%	1.0%
5年	5.0%	4.0%	3.0%	2.0%	1.0%	—	—	—	—	—

■「目標値到達時定額円貨建年金保険移行特約」を付加して目標値に到達し、定額の円貨建年金保険への移行後は解約控除はかかりません。

12 年金支払開始日を繰り延べることができます

- 年金支払開始日の前日に、1回に限り、年金支払開始日を日単位で繰り延べるすることができます。
- 繰延べ期間は最長3年かつ繰延べ期間の満了日における被保険者の満年齢が90歳となる年単位の契約応当日の前日を限度とします。
- 繰延べ前の年金支払開始日の前日末における積立金額について、繰延べ前の年金支払開始日における当社所定の利率で積み立てます（積み立てられる金額を繰延べ後積立金額といいます）。
- 繰延べ後の年金額は、繰延べ後の年金支払開始日の前日における繰延べ後積立金額を年金原資額として、繰延べ後の年金支払開始日における基礎率など（予定利率など）に基づいて算出されます。
- 繰延べ期間には、ご契約を解約して繰延べ後積立金額をお受け取りいただくこともできます（市場価格調整は行わず、解約控除もかかりません）。
- 「目標値到達時定額円貨建年金保険移行特約」を付加して目標値に到達し、定額の円貨建年金保険に移行した場合であっても、年金支払開始日を繰り延べるすることができます。ただしこの場合、繰延べ期間は最長1年となります。
- 「目標値到達時定額円貨建年金保険移行特約」を付加して目標値に到達せず、年金支払開始日を繰り延べた場合、繰延べ期間中の目標値への到達状況の判定は行いません。

<イメージ>



* 上記のしくみ図は、定額部分および変額部分を分けて記載しています。

13 変額部分における特別勘定の概要とその投資リスクは以下のとおりです

■以下の投資信託を主たる投資対象として運用を行います。詳しくは「特別勘定のしおり」をお読みください。

指定通貨	米ドル	豪ドル	NZドル
特別勘定の名称	グローバル運用型(米ドル)	グローバル運用型(豪ドル)	グローバル運用型(NZドル)
主な投資対象となる投資信託の名称	DIAM世界アセットバランスファンド18VA (適格機関投資家限定)	DIAM世界アセットバランスファンド17VA (適格機関投資家限定)	DIAM世界アセットバランスファンド26VA (適格機関投資家限定)
運用会社	《DIAMアセットマネジメント株式会社》 1999年に第一ライフ投信投資顧問、興銀NWアセットマネジメント、日本興業投信の3社が合併して設立された運用会社です。運用力の強化、グローバルな情報収集・投資戦略を計画・実行するため、100%出資による子会社をロンドン、ニューヨーク、シンガポールに有し、世界的視野に立った調査・運用体制を実現しています。		
資産運用関係費	信託報酬は、投資対象となる投資信託の純資産総額に対して、 年率0.20%(税抜き) の1/365を毎日控除します。		
投資方針	日本・米国・欧州・香港・新興国の株式、日本・米国・欧州の債券、商品(コモディティ)、為替取引などを実質的な投資対象とする投資信託に投資し、特別勘定資産の成長を図ることを目的として、積極的な運用を行います。		

■各資産クラスの対象資産は、以下のとおりです。詳しくは「特別勘定のしおり」をお読みください。

資産クラス	対象資産
株式	日経225先物
	S&P500種指数先物
	ユーロ・ストックス50指数先物
	ハンセン株価指数先物
	MSCIエマージング・マーケット・インデックス先物
債券	日本10年国債先物
	米国10年国債先物
	ドイツ10年国債先物
商品	S&P GSCI ライト・エナジー指数
短期金融資産など	米国2年国債先物
	無担保コール翌日物金利

*法令や規制方針の変更により、やむを得ず投資対象を変更することがあります。

■変額部分の主な投資リスクは次のとおりですが、この他にも投資リスクがあります。詳しくは「特別勘定のしおり」をお読みください。

価格変動リスク	有価証券などの市場価格の変動により、資産価値が減少することがあります。
金利変動リスク	公社債などの価格は、一般的に金利が上昇した場合には下落し、金利が下落した場合には上昇しますので、金利の変動により、資産価値が減少することがあります。
為替変動リスク	外国為替相場の変動により、資産価値が減少することがあります。
信用リスク	株式や債券などの発行者の経営・財務状況の悪化にともなう外部評価の変化などにより、資産価値が減少することがあります。
カントリーリスク	投資対象国における政治不安や社会不安、あるいは外交関係の悪化などの要因により、資産価値が減少することがあります。

■特別勘定の評価方法は、投資信託を含む有価証券などについては時価評価し、それ以外については原価法によるものとします。ただし、この評価方法について将来変更することがあります。詳しくは「ご契約のしおり・約款」をお読みください。

14 お客さまに負担していただく諸費用があります

■費用の詳細については、次ページ以降をご参照ください。

この「注意喚起情報」は、ご契約のお申込みに際して特にご注意いただきたい
まいりますようお願いいたします。
この「注意喚起情報」のほか、お支払事由および制限事項の詳細やご契約の

い事項を記載しています。ご契約前に十分にお読みいただき、内容をご確認・ご了解のうえ、お申し
内容に関する事項は、「ご契約のしおり・約款」に記載しておりますのでお読みください。



お客さまに負担していただく諸費用について

■この保険にかかる費用は、運用期間中は変額部分における「保険契約関係費」「資産運用関係費」の合計額、年金受取期間中は「保険契約関係費（年金管理費）」となります。ただし、解約時には、この他に「解約控除」がかかります。また、外貨のお取扱いに必要な費用を負担していただくことがあります。

運用期間中

- ①定額部分における費用
直接負担していただく費用はありません。積立利率の計算にあたって、ご契約の締結・維持などに必要な費用および死亡給付金を支払うための費用をあらかじめ差し引いております。
- ②変額部分における費用

項 目	費 用	時 期
保険契約関係費 死亡給付金の最低保証やご契約の締結・維持などに必要な費用です。	特別勘定の資産総額に対して 年率 1.85%	左記の年率の1/365を変額部分の積立金から 毎日控除します。
資産運用関係費* 運用にかかわる費用として、投資対象となる投資信託にかかる信託報酬などです。	信託報酬は、投資信託の純資産総額に対して 年率 0.20% (税抜き)	左記の年率の1/365を投資信託の信託財産から 毎日控除します。

※上記の信託報酬のほか、信託事務に関する諸費用、監査費用、有価証券・金融派生商品の取引にかかわる費用および消費税などを間接的に負担していただきます。なお、売買委託先、売買金額などによって手数料率が変動するなどの理由から、これらの計算方法は表示しておりません。記載の信託報酬は2015年8月現在の数値であり、運用会社により将来変更される場合があります。

- 特定のご契約者に負担していただく費用
解約返還金額は、つぎの費用を控除したうえで計算されます。

項 目	費 用	時 期
解約控除 ご契約の解約などに必要な費用です。	この保険の基本保険金額に経過年数別の解約控除率を乗じた金額 (注)解約控除率は下表参照	ご契約の解約などの際に控除します。 (P19をご参照ください)

解約控除率

経過年数		1年未満	1年以上2年未満	2年以上3年未満	3年以上4年未満	4年以上5年未満	5年以上6年未満	6年以上7年未満	7年以上8年未満	8年以上9年未満	9年以上10年未満
運用期間	10年	10.0%	9.0%	8.0%	7.0%	6.0%	5.0%	4.0%	3.0%	2.0%	1.0%
	5年	5.0%	4.0%	3.0%	2.0%	1.0%	—	—	—	—	—

*移行後積立期間中に解約した場合、解約控除はかかりません。

年金受取期間中

項 目	費 用
保険契約関係費（年金管理費）* 年金支払管理に必要な費用です。	受取年金額に対して 0.4% (円貨で年金を受け取る場合は 0.35%)

※年金額は、年金支払開始日以後、年金の支払いとともに費用を控除する前提で算出されますので、費用が年金額から差し引かれるものではありません。また、保険契約関係費（年金管理費）は2015年8月現在の数値であり、将来変更することがありますが、年金受取開始時点の保険契約関係費（年金管理費）は、年金受取期間を通じて適用されます。なお、「死亡給付金等の年金払特約」を付加した場合の特約年金についても同様の取扱いとなります。

通貨を換算する場合の費用

以下の場合には、為替手数料が為替レートに反映されており、当該手数料はお客さまの負担となります。TTM(対顧客電信売買相場仲値)は、第一フロンティア生命所定の金融機関が公表する値となります。

- 「保険料円貨入金特約」を付加して保険料を円貨でお払い込みいただく場合、「円貨支払特約」を付加して年金、死亡給付金、解約返還金などを円貨でお受け取りになる場合、および「目標値到達時定額円貨建年金保険移行特約」を付加して定額の円貨建年金保険に移行した場合

「保険料円貨入金特約」における為替レート	TTM + 50銭
「円貨支払特約」における為替レート	TTM - 50銭
「目標値到達時定額円貨建年金保険移行特約」の目標値判定為替レート	TTM - 50銭

- 「保険料外貨入金特約」を付加して保険料を外貨でお払い込みいただく場合

「保険料外貨入金特約」の為替レート(クロスレート)
(払込通貨のTTM - 25銭) ÷ (指定通貨のTTM + 25銭)

*上記の為替レートは、2015年8月現在の数値であり、将来変更することがあります。

外貨のお取扱いにかかる費用について

保険料を外貨でお払い込みいただく際には、銀行への振込手数料などの手数料をご契約者に負担していただく場合があります（「保険料外貨入金特約」を付加して保険料を指定通貨と異なる外貨でお払い込みいただく場合などは上記をご参照ください）。また、年金、給付金、解約返還金などを外貨でお受け取りになる際には、取扱金融機関により諸手数料などの実費を負担していただく場合があります。当該手数料はお客さまの負担となります。

*上記の諸手数料は取扱金融機関によって異なります。



ご注意

変額部分の投資リスクについて(損失が生じるおそれ)

- この保険の変額部分の積立金は、特別勘定で運用・管理されます。特別勘定は、日本・米国・欧州・香港・新興国の株式、日本・米国・欧州の債券、商品(コモディティ)、為替取引などで実質的に運用されるため、株価や債券価格の下落、為替の変動などが基準価額の下落要因となります。
- 基準価額の下落は直接、積立金額、解約返還金額などに反映されるため、積立金額、解約返還金額は一時払保険料相当額を下回ることがあり、損失が生じるおそれがあります。これらのリスクはすべてご契約者に帰属します。資産運用の成果がご契約者の期待どおりでなかった場合でも、第一フロンティア生命または生命保険募集人などの第三者がご契約者に何らかの補償・補填をすることはありません。
- なお、特別勘定に属する資産の種類、評価方法、運用方針については「契約概要」「ご契約のしおり・約款」「特別勘定のしおり」に記載しておりますので、必ずお読みいただき内容を十分にご確認ください。



ご注意

解約する場合のリスクについて(損失が生じるおそれ)

定額部分について市場価格調整(P19をご参照ください)を行うこと、変額部分について投資リスクがあること、解約の際に解約控除がかかることなどの理由により、解約返還金額などが一時払保険料相当額を下回り、損失が生じるおそれがあります。



ご注意

為替リスクについて(損失が生じるおそれ)

為替相場の変動により、お受取時の為替レートで円貨に換算した年金原資額、死亡給付金額、解約返還金額が、ご契約時の為替レートで円貨に換算した年金原資額、死亡給付金額、解約返還金額を下回る場合や、お受取時の為替レートで円貨に換算した年金原資額、死亡給付金額、解約返還金額が、ご契約時の為替レートで円貨に換算した一時払保険料相当額を下回り、損失が生じるおそれがあります。

1

8日以内であれば、ご契約のお申込みの撤回やご契約の解除(クーリング・オフ)ができます

- お申込者またはご契約者は、**ご契約の申込日または一時払保険料充当金をお払い込みいただいた日のいずれか遅い日から起算して8日以内(土日、祝日、年末・年始などの休日を含みます)**であれば、書面によりご契約のお申込みの撤回またはご契約の解除(以下「お申込みの撤回など」といいます)を**することができます**。
- お申込みの撤回などは、書面の発信時(郵便の消印日付)に効力が生じますので、郵便により第一フロンティア生命あてに送付してください。
 <送先> 〒141-8712 日本郵便株式会社 大崎郵便局 郵便私書箱第26号
 第一フロンティア生命保険株式会社 お客さまサービスセンター
- お申込みの撤回などがあつた場合、お払い込みいただいた金額を全額お返しいたします。
- 一時払保険料充当金(「保険料円貨入金特約」を付加した場合は円貨払込金額、「保険料外貨入金特約」を付加した場合は外貨払込金額)と同額をお払い込みいただいた通貨でお返しいたします。お客さまが外貨をお受け取りになる際には、取扱金融機関により諸手数料などの実費を負担していただく場合があります。
- ご契約の内容変更(特約の中途付加など)や債務履行の担保のための保険契約である場合には、お申込みの撤回などはできません。
- クーリング・オフ制度の詳細については「ご契約のしおり・約款」の「クーリング・オフ制度」をお読みください。

2

告知は不要です

- この保険のご契約に際しては、ご契約者および被保険者に対し、告知を求めません。

3

定額部分に適用される積立利率は、第一フロンティア生命が一時払保険料を受け取った日における積立利率となります

- 積立利率は毎月1日と16日の月2回設定されます。
- お申込みから一時払保険料を当社が受け取った日までの間に積立利率が変更された場合、一時払保険料を当社が受け取った日における積立利率が適用されますので、ご注意ください。
- なお、定額部分の積立金額は、ご契約に適用される積立利率および契約日からの経過年月日数に基づき計算する金額となります。

積立利率は、運用期間に応じた指定通貨の金利スワップレートを指標金利とし、その指標金利を参考に、保険契約の締結・維持などに必要な費用および死亡給付金を支払うための費用を差し引いた利率となり、この保険では、定額部分に適用されます。

4

保障の開始(保障の責任開始期)、契約日および特別勘定による運用の開始日は以下のとおりとなります

- 保険契約のお申込みを第一フロンティア生命が承諾した場合には、第一フロンティア生命が**一時払保険料を受け取った時から、ご契約上の保障が開始されます**。
- 募集代理店の担当者(生命保険募集人)は、お客さまと第一フロンティア生命の保険契約締結の媒介を行う者で、保険契約締結の代理権はありません。したがって、保険契約は、お客さまからのお申込みに対して第一フロンティア生命が承諾したときに有効に成立します。
- この保険の契約日は、第一フロンティア生命が一時払保険料のうち変額部分の基本保険金額に相当する額を特別勘定に繰り入れる日となります。
- 第一フロンティア生命は、第一フロンティア生命の責任が開始される日(一時払保険料を受け取った日)から起算して8日後となる日または第一フロンティア生命が保険契約のお申込みを承諾した日のいずれか遅い日末に一時払保険料のうち変額部分の基本保険金額に相当する額を特別勘定に繰り入れ、その翌日から特別勘定による運用を開始します(保有口数の算出日は第一フロンティア生命がその額を特別勘定に繰り入れる日となります)。

保険料を銀行などからの借入金で調達した場合、運用実績によっては解約返還金などが借入元利金を下回り、借入元利金を返済できなくなることがあります。したがって、一時払保険料に充当するための借入れを前提としたお申込みはお取り扱いできません。

5 死亡給付金・年金をお支払いできない場合があります

- 死亡給付金の免責事由に該当した場合（責任開始期の属する日から起算して3年以内に被保険者が自殺したとき、ご契約者・死亡給付金受取人が故意に被保険者を死亡させたときなど）
- 重大事由によりご契約が解除となった場合（ご契約者、被保険者、年金受取人または死亡給付金受取人が、暴力団関係者、その他の反社会的勢力に該当する、もしくは関係を有していると認められたときや、死亡給付金を詐取る目的で事故を起こしたときなど）
- 死亡給付金の不法取得目的によるものとしてご契約が無効となった場合
- 詐欺によるものとしてご契約が取消しとなった場合

6 解約返還金額が増加または減少することがあります

- 解約返還金額の計算方法など詳細はP19をご参照ください。

7 目標到達の判定は、積立金額ではなく「解約返還金額の円換算額」で行います（「目標値到達時定額円貨建年金保険移行特約」を付加した場合）

8 この保険には為替リスクがあります

- 詳細はP25をご参照ください。

9 第一フロンティア生命は、生命保険契約者保護機構に加入しています

- 生命保険会社の業務または財産の状況の変化により、基本保険金額、年金額、給付金額などが削減されることがあります。
- 保険業法に基づき設立された生命保険契約者保護機構に第一フロンティア生命は会員として加入しています。会員である生命保険会社が万一経営破綻に陥った場合、生命保険契約者保護機構によりご契約者などの保護の措置が図られることとなります。ただし、この措置が図られたとしても、ご契約時にお約束した基本保険金額、年金額、給付金額の削減など、契約条件が変更されることがあります。詳細については、生命保険契約者保護機構までお問い合わせください。

生命保険契約者保護機構 TEL:03-3286-2820
受付時間:月曜日～金曜日(祝日・年末年始を除く)午前9時～正午、午後1時～午後5時
ホームページアドレス <http://www.seihohogo.jp/>

10 現在ご契約中の他の保険契約を解約または減額して、新たに保険契約のお申込みをする場合、お客さまにとってつぎのような不利益となる事項があります

- ご契約中の他の保険契約の解約返還金額は、多くの場合、お払込保険料の合計額より少ない金額となります。また、一定期間のご契約の継続を条件に発生する配当の請求権などを失うこととなる場合があります。
- ご契約中の他の保険契約のままであればお支払いができる場合であっても、詐欺による取消しや責任開始期の属する日から起算して3年以内に被保険者が自殺したときなど、給付金などが支払われないことがあります。
- ご契約中の他の保険契約を解約した場合、新たな保険契約の取扱いにかかわらず、**いったん解約した保険契約を元に戻すことはできません**。また、ご契約中の他の保険契約を減額した場合、元の契約に戻す(復旧する)取扱いに制限を受けることがあります。

11 特別勘定を廃止し、積立金を他の特別勘定に移転することがあります

- ご契約者が指定した特別勘定について、その資産が著しく減少し効率的な資産運用が困難になったときや運用対象である投資信託が償還され運用対象として存続しなくなったときなど特別な事情がある場合には、第一フロンティア生命は、その特別勘定を廃止しその特別勘定と類似の運用方針を有する他の特別勘定に積立金を移転することがあります。
- 特別勘定の廃止に伴う積立金の移転をするときには、その廃止日(移転日)の2か月前までに、ご契約者にその旨お知らせします。

12 お手続きの停止、延期および取消しを行うことがあります

- 天災、戦争その他の変乱、火災またはシステムの障害などの突発的な異常事態によって特別勘定資産の売買ができないときは、その期間(以下「取引停止期間」といいます)中、以下のとおり取り扱いいます。
- 保険契約のお申込みについては、取引停止期間中は受付を行いません。すでにお申込みを受け付けていた場合でも、そのお申込みはなかったものとして取り扱いいます。なお、その特別勘定資産の売買が再開された日から受付を開始します。
- 解約については、取引停止期間中もお申出の受付を行います。ただし、その特別勘定資産の売買が再開された日の翌営業日に解約されるものとします(解約が延期されます)。この場合、その解約される日を解約返還金計算日とします。なお、その特別勘定資産の売買が再開された日までに、ご契約者よりお手続きの中止のお申出があった場合は、その請求がなかったものとして取り扱いいます。
- ご契約時に「目標値到達時定額円貨建年金保険移行特約」を付加し、目標値の変更または特約の解約(以下「目標値の変更など」といいます)をする場合は、取引停止期間中もお申出の受付を行います。ただし、その特別勘定資産の売買が再開された日の翌営業日に目標値の変更などが行われるものとします(目標値の変更などのお手続きが延期されます)。なお、その特別勘定資産の売買が再開された日までに、ご契約者よりお手続きの中止のお申出があった場合は、その請求がなかったものとして取り扱いいます。
- お手続きの停止、延期および取消しを行う場合、第一フロンティア生命の本社および各募集代理店において掲示を行うとともに、第一フロンティア生命ホームページ(<http://www.d-frontier-life.co.jp/>)にてお知らせします。

13 この保険にかかわる指定紛争解決機関は一般社団法人生命保険協会です

- 一般社団法人生命保険協会の「生命保険相談所」では、電話・文書(電子メール・FAXは不可)・来訪により生命保険に関するさまざまな相談・照会・苦情をお受けしております。また、全国各地に「連絡所」を設置し、電話にてお受けしております。(生命保険協会ホームページアドレス <http://www.seiho.or.jp/>)
- 「生命保険相談所」が苦情の申出を受けたことを生命保険会社に連絡し、解決を依頼した後、原則として1か月を経過しても、ご契約者などと生命保険会社との間で解決がつかない場合については、指定紛争解決機関として、「生命保険相談所」内に裁定審査会を設け、ご契約者などの正当な利益の保護を図っております。

14 死亡給付金のお支払いに関する手続きなどの留意事項は以下のとおりです

- お客さまからのご請求に応じて、死亡給付金のお支払いを行う必要がありますので、死亡給付金のお支払事由が生じた場合のほか、ご不明な点が生じた場合などについても、すみやかにご連絡ください。
- 第一フロンティア生命からのお手続きに関するお知らせなど、重要なご案内ができないおそれがありますので、ご契約者のご住所などを変更された場合には、必ずご連絡ください。
- 死亡給付金のお支払事由が生じた場合、複数の保険契約にご加入されていればそれぞれの契約について給付金などのお支払事由に該当することがありますので、「保険証券」、「ご契約のしおり・約款」などを十分にお読みください。なお、ご不明な点がある場合にはご連絡ください。

15 ご加入の生命保険に関するお手続きやご照会・ご相談・苦情については下記までご連絡ください

- 第一フロンティア生命は引受保険会社として、契約内容に関するご照会やお客さまからのお申出への対応、死亡給付金の支払手続きに関する照会を含む各種手続き方法に関するご案内など、ご契約の保全に関するすべての業務を行います。
- 募集代理店は、契約内容に関するご照会対応など一部の業務を行います。

第一フロンティア生命
お客さまサービスセンター

☎ 0120-876-126

営業時間：月曜日～金曜日(祝日、年末・年始などの休日を除く)
9:00～17:00

16 税務のお取扱いは以下のとおりです

- ここに記載の税務のお取扱いは2015年8月現在のものです。法令改正などにより税務のお取扱いが変更となった場合には、変更後の内容が適用されますのでご注意ください。また、個別のお取扱いについては、税理士などの専門家または所轄の税務署にご確認のうえ、ご自身の責任においてご判断ください。
- *2037年12月31日までの各年の所得税に対しては「復興特別所得税」が適用され、各年の所得税額に対して2.1%を乗じた金額が追加的に課税されます。つぎの記載内容は、これを加味しています。
- *ご契約者が法人である場合には、法人税、事業税および住民税などに関するお取扱いとなりますのでご注意ください。

外貨建の保険契約のお取扱い

- つぎの基準により円貨に換算したうえで、円貨建の生命保険と同様のお取扱いとなります。

項目		円換算日	換算時の為替レート
一時払保険料		保険料領収日	TTM (円換算日最終の対顧客電信売相場仲値)
解約返還金	源泉分離課税となる場合	解約返還金計算日 (請求書類の受付日)	TTB (円換算日最終の対顧客電信買相場)
	所得税(一時所得)となる場合		TTM (円換算日最終の対顧客電信売相場仲値)
死亡給付金	相続税・贈与税となる場合	支払事由発生日	TTB (円換算日最終の対顧客電信買相場)
	所得税(一時所得)となる場合		TTM (円換算日最終の対顧客電信売相場仲値)
年金原資額の一時支払	源泉分離課税となる場合	年金支払開始日	TTB (円換算日最終の対顧客電信買相場)
	所得税(一時所得)となる場合		TTM (円換算日最終の対顧客電信売相場仲値)
(特約)年金		(特約)年金支払日	TTM (円換算日最終の対顧客電信売相場仲値)

- *TTM(対顧客電信売相場仲値)、TTB(対顧客電信買相場)についてはP18をご参照ください。
- *「保険料円貨入金特約」を付加した場合は、上表の保険料については円貨払込金額となります。
- *「保険料外貨入金特約」を付加した場合は、上表の保険料については外貨払込金額を円貨に換算した金額となります。
- *「円貨支払特約」または「目標値到達時定額円貨建年金保険移行特約」を付加した場合で、当社が、年金、死亡給付金、解約返還金などを円貨でお支払いしたときは、そのお支払いした金額に基づき課税されます。
- *受取額は、円換算額で課税されるため、外貨建の受取額が一時払保険料相当額を下回っても課税されることがあります。
- *受取額は、円換算額で課税されるため、税引後の外貨建の受取額が一時払保険料相当額を下回ることがあります。

ご契約時

- お払いいただいた保険料は、以下の条件を満たせば、払い込んだ年の一般の生命保険料控除の対象となります。
- 介護医療保険料控除および個人年金保険料控除の対象とはなりませんのでご注意ください。なお、保険料払込方法が一時払のため、払い込んだ年のみ控除の対象となります。

- *契約日が払い込んだ年の翌年となる場合は、翌年の控除の対象となります。

生命保険料控除の適用条件	ご契約者(保険料負担者)が納税者本人であり、死亡給付金の受取人が、本人か配偶者またはその他の親族(6親等以内の血族および3親等以内の姻族)であること。
--------------	---

運用期間中および移行後積立期間中

■解約時の差益に対する課税

契約日から5年以内の解約	契約日から5年超の解約
20.315%源泉分離課税	所得税(一時所得※1)+住民税

■死亡給付金受取時の課税

契約形態	契約例			課税の種類
	ご契約者 (保険料負担者)	被保険者	死亡給付金 受取人	
ご契約者と被保険者が同一人	A	A	B	相続税
ご契約者と死亡給付金受取人が同一人	A	B	A	所得税(一時所得※1)+住民税
ご契約者、被保険者、 死亡給付金受取人がそれぞれ別人	A	B	C	贈与税

- *契約者(=保険料負担者)と被保険者が同一人で、死亡給付金受取人が相続人である場合、他の死亡保険金などと合算の上、「生命保険金の非課税枠(500万円×相続税法で定める法定相続人数)<相続税法第12条>」が適用されます。

年金受取期間中

■一括受取(年金原資額の一時支払)時の課税

契約日から5年以内の一括受取	契約日から5年超の一括受取
20.315%源泉分離課税	所得税(一時所得※1)+住民税

- *ご契約者と年金受取人が別人の場合、一括受取額に対して贈与税が課税されます。

■年金受取時の課税

年金のお受取時	未払年金の一括受取の場合
所得税(雑所得※2)+住民税	所得税(一時所得※1)+住民税

- *ご契約者と年金受取人が別人の場合、年金受取開始時に別途贈与税が課税されます。

- ※1 一時所得の課税対象
一時所得については、他の一時所得と合算して年間50万円限度の特別控除があります。
特別控除を超える部分については、その2分の1の金額が他の所得と合算されて総合課税されます。

一時所得の課税対象額 =
$$\left(\text{収入} - \text{必要経費} - \text{特別控除} \right) \times \frac{1}{2}$$

$$\left(\text{(受取額)} - \text{(払込保険料)} - \text{(50万円)} \right)$$

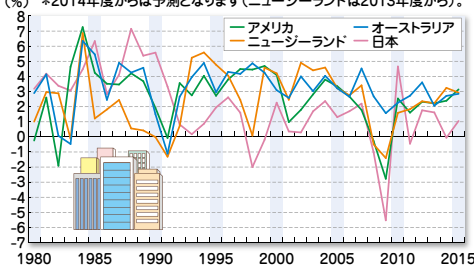
- ※2 ご契約者と年金受取人が別人の場合(「死亡給付金等の年金払特約」を付加して死亡給付金を年金で受け取る場合を含みます)、初回の年金は非課税となり、2回目以降の年金のうち一部が課税対象となります。

ご参考資料 アメリカ・オーストラリア・ニュージーランドの魅力

*当資料は信用できる資料をもとに作成しておりますが、データ内容の正確性や完全性については、これを保証するものではありません。

経済成長率(日本との比較)

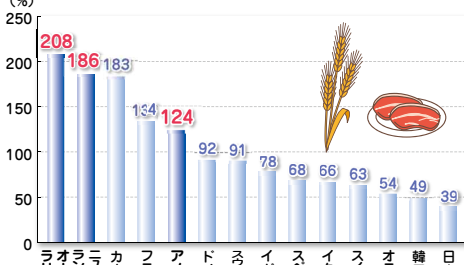
GDP成長率は日本と比べて高い水準を保っています。
*2014年度からは予測となります(ニュージーランドは2013年度から)。



出典:IMF World Economic Outlook Database April 2015

食料自給率(カロリーベース)(2010年)

非常に高い食料自給率が安定した経済を支える要因の一つとなっています。



出典:国際連合食糧農業機関 (FAO)・農林水産省のデータより第一フロンティア生命が作成

主な鉱物資源生産世界シェア

豊富な資源を保有しており、安定した経済を支える要因の一つとなっています。
また両国ともに、近年注目の集まるシェールガスを多く埋蔵しているといわれています。

アメリカ	硫黄	2位	13.5%
	レア・アース	2位	6.4%
	石灰	2位	5.4%
	鉛	3位	6.5%
	金	4位	7.4%
オーストラリア	ボーキサイト	1位	34.6%
	チタン鉱石	1位	16.5%
	鉄鉱石	2位	20.5%
	鉛	2位	13.2%
	亜鉛	2位	11.3%
	銅	4位	7.3%
	亜鉛	4位	6.2%
	シェールガス*	4位	—
	金	2位	9.4%
	マンガン	3位	17.2%
	ダイヤモンド	3位	15.4%
	レア・アース	4位	2.3%
	シェールガス*	7位	—

出典:USGS「MINERAL COMMODITY SUMMARIES 2015」のデータより
*生産量については、USGS「MINERAL COMMODITY SUMMARIES 2015」に生産量が記載されている国の中での順位・シェアであり、必ずしも世界順位・シェアを正確に反映しているとは限りません。
*シェールガスについては、国別推定可採埋蔵量の順位となります。(U.S. Energy Information Administrationのデータによる)

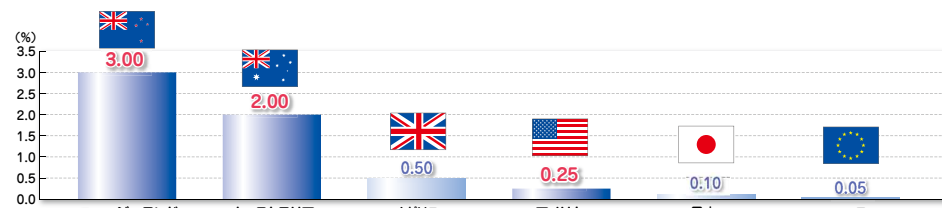
酪農製品輸出量ランキング(2014年予測値)

	バター	チーズ	全粉乳
1位	ニュージーランド 510	EU 825	ニュージーランド 1,350
2位	EU 120	アメリカ 303	EU 375
3位	アメリカ 70	ニュージーランド 300	アルゼンチン 211
4位	オーストラリア 62	オーストラリア 190	オーストラリア 100
5位	アルゼンチン 22	ウクライナ/アルゼンチン 60	チリ 13

出典:米農務省 USDA

単位:千トン

先進主要国の政策金利等(2015年7月現在)

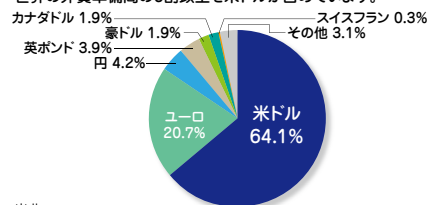


【政策金利】 日本: 無担保コール翌日物レート アメリカ: Federal Funds Rate イギリス: Current Bank Rate
ユーロ: Main Refinancing Operations オーストラリア: Cash Rate Target ニュージーランド: Official Cash Rate

さらにアメリカ(米ドル)を見てみると...

外貨準備の構成比率(2015年第1四半期)

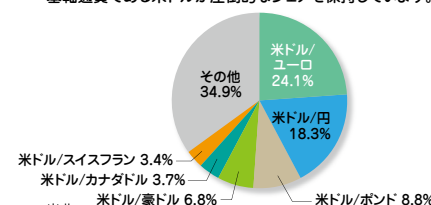
世界の外貨準備高の6割以上を米ドルが占めています。



出典:IMF「Currency Composition of Official Foreign Exchange Reserves」

通貨ペア別の取引高比率(2013年)外国為替市場の一日平均

基軸通貨である米ドルが圧倒的なシェアを保持しています。

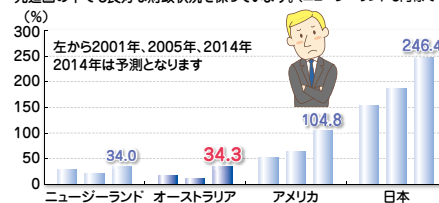


出典:米ドル/豪ドル 6.8% 米ドル/ポンド 8.8%
国際決済銀行(BIS)「Triennial Central Bank Survey 2013」

さらにオーストラリアを見てみると...

政府債務残高(対GDP)

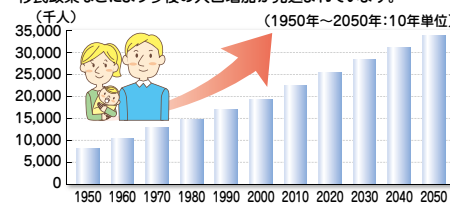
先進国の中でも良好な財政状況を保っています。(ニュージーランドも同様です)



出典:IMF「World Economic Outlook Database, April 2015」

オーストラリアの人口推移

移民政策などにより今後の人口増加が見込まれています。



出典:UN, World Population Prospects: The 2012 Revision

さらにニュージーランドを見てみると...

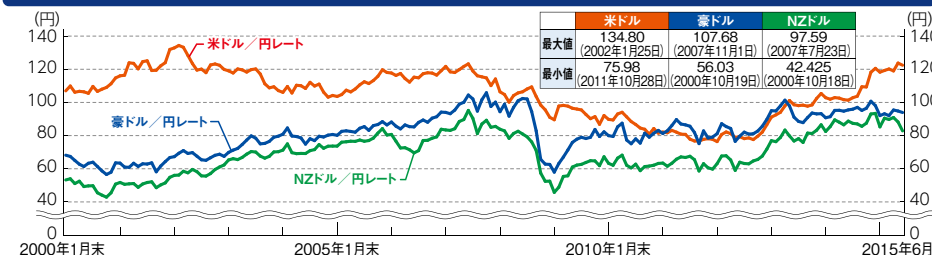
積極的な貿易協定の締結(発効している自由貿易協定など) 2015年3月現在

オーストラリア・ニュージーランド 経済関係緊密化協定	1983年1月	ASEAN-オーストラリア・ニュージーランド 自由貿易協定	2010年1月
ニュージーランド・シンガポール 経済緊密化連携協定	2001年1月	ニュージーランド・マレーシア 自由貿易協定	2010年8月
ニュージーランド・タイ 経済緊密化連携協定	2005年7月	香港・ニュージーランド 経済緊密化連携協定	2011年1月
太平洋戦略経済連携協定	2006年5月	台湾・ニュージーランド 経済協力協定	2013年12月
ニュージーランド・中国 自由貿易協定	2008年10月		

出典:日本貿易振興機構(JETRO)のデータより第一フロンティア生命が作成

為替の推移(2000年1月~2015年6月末)

【出所】Bloombergデータを使用して、第一フロンティア生命が作成



*対象期間について日次データ(TTM)より月末値を抽出してグラフを作成